

小惑星(12769) “神田紅(かんだくれない)” 誕生 (12769) Kandakurenai

(12769) Kandakurenai = 1994 FF

Discovered 1994 Mar. 18 by K. Endate and K. Watanabe at Kitami.
Japanese actress Kurenai Kanda (b. 1952) became a disciple of the second-generation Sanyo Kanda, being captivated by his manner of talking. In 1989 she became a professional storyteller, performing with songs and dancing. She is a member of the executive board of the Japan Space Forum.
M. P. C. 62 354 2008 MAR. 21

[小惑星回報](2008年3月21日発行)で公表された“神田紅”の命名文

神田紅(かんだ・くれない)

女流講談師で有名な「神田紅」さんからの命名です。福岡市生まれ。早稲田大学商学部中退と同時に1974年文学座付属演劇研究所に入所し、俳優としてテレビ、映画、舞台で活動します。1979年、神田山陽の語り口と講談の魅力にとりつかれ門下生となり、神田紅を名乗って同年に初高座を踏む。1982年その特異なキャラクターを活かした芝居講談を手がけました。以後、講談師のかたわら、俳優、レポーター、エッセイストとしても活躍。1989年には本牧亭(ほんもくてい)最後の真打ち披露をつとめ、男性社会に存在感をアピールしました。また、日本講談協会理事を務めています。

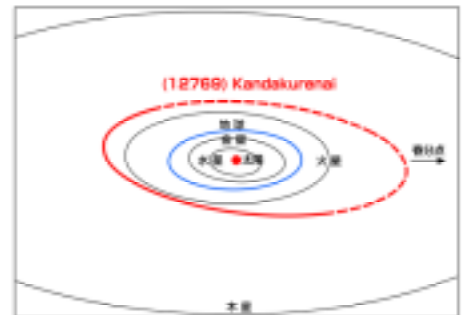
得意のタップも踏む「くろすおーばー講談」が好評。俳優としては「津軽三味線ながれぶし」「屋根の上のバイオリン弾き」などに出演し好評を博しました。とりわけ、津軽三味線ながれぶしの老婆役で新人奨励賞を受賞。1987年より新作「源氏物語」に挑戦し、1988年「紅恋(くれん)源氏物語」を出版しています。講談演目に古典「黒田武士」「伊達家の鬼夫婦」「赤穂義士の討ち入」「真田幸村大阪出陣」など、新作に「芥川龍之介の桃太郎」「落雁(らくがん)恋の仇花(あだばな)・阿部定物語」「紅恋・源氏物語」などがあります。その他、テレビ・ラジオにも出演。新聞等にも連載多数を執筆。

昭和61年に二ツ目に昇進、平成元年に真打に昇進しました。弟子3人と「ヒップホップ講談」を3作発表、下手な歌も講談のリズムに乗って人気急上昇！めざせ紅白出演！とか。わかり易く楽しめる講談の創作、古典講談を紅流にアレンジしていくことを目指しているそうです。自称、夢大恋愛多き博多の女。ただし、恋はこの頃お留守中とのことです。

小惑星“(12769)神田紅”とは

小惑星“神田紅”は1994年に、札幌の渡辺和郎(52)と美幌の円館金(47)によって発見され、発見後の多数の観測によって軌道が決まり、12769番目に登録された。これによっていつでも計算によって小惑星の位置を知ることができる。登録小惑星は全部で(4月1日現在)18万個ほど。数が多いため、とくに発見者に命名の提案権が認められている。

火星と木星の間を3.40年で一周し、わずかに潰れた楕円軌道を描き、大きさは推定直径で7km前後。近年の発見の中では比較的大きな部類。地名や学者の命名が多い中、芸能人の名が星に付くのは珍しいと思われる。この名前は人類が存在する限り未来永劫残されてゆく。

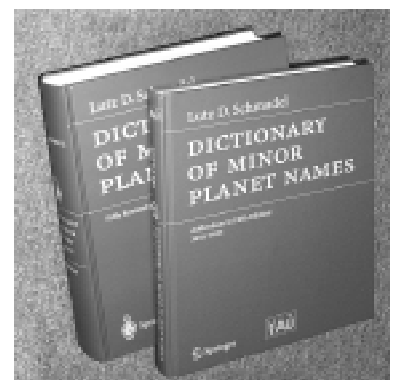


太陽系での“神田紅”の軌道(45°斜め方向から)

国際天文学連合

世界各国の天文学者が集まる国際組織「国際天文学連合 (IAU: International Astronomical Union)」。天文学にかかわるあらゆる決議が行われる。最近の話題として、冥王星を太陽系の惑星から外して八つにすることが報じられた。夜空に輝く“こぞ座”とか、1等星“ベガ”と同じ扱いで、世界共通の学術名となる。

太陽系の小天体名は、第20委員会傘下の“小天体命名委員会”の審査を経て発表される。その事務局は、米国のハーバード・スミソニアン天文台内の「小惑星センター」。小惑星センターからは毎月、観測や軌道、新たな命名を公表する「小惑星回報(MPC)」が発行される。また、小惑星の命名は3年に一度(IAU総会開催年)更新される『小惑星名辞典(Dictionary of Minor Planet Names: 現在第5版・増補版)』に収録される。



小惑星名辞典の第5版と増補版

